わたしから始める、世界が変わる



# ぼくを愛してくれる人がいる

日本国際飢餓対策機構 広報ディレクター 吉田知基

「人間にとってもっとも悲しむべきことは、病気でも貧乏でもない。自分はこの世に不要な人間なのだと思い込むことだ。」マザー・テレサ

親や家族の愛情に包まれて成長することは、子どもにとってとても大切です。しかしながら世界で約1億4,000万人の子ども(18歳未満)が、飢餓や貧困、災害や紛争、病などによって親を亡くしていると言われています。(ユニセフ2016年統計)

日本国際飢餓対策機構は、子どもたちを取り巻く環境を 改善しながら地域全体の自立を目指すチャイルドサポート プログラムによって、世界7ヵ国で2,000人の子どもたちを 支援しています。

2013年に私はウガンダのナムトゥンバ地区を訪問しました。その時に出会った男の子、ムルタくん (12歳) のことを忘れることができません。最初に会った時、彼の表情は暗くどこか寂しげな瞳をしていて、私がどんな質問をしても力のない返事が返ってくるだけでした。現地スタッフから話を聞くと、彼の両親は彼がまだ幼い時にマラリアで亡くなっていました。その後、親戚の家で暮らしていたのです。しかし、1度だけ彼の表情が明るくなる瞬間がありました。

それは彼を支援している日本のサポーターさんについて話した時でした。日本のあるキリスト教会の方々が彼を支援してくださっています。私は以前その教会を訪問したことがあったので、教会の皆さんがムルタくんのために一生懸命祈り、応援してくださっていることを彼に伝えました。その瞬間、彼の表情がぱっと明るくなり、照れくさそうにしながら、英語で「Thank you」と言ってくれたのです。

しばらく一緒に過ごした後、私たちが帰ろうとすると、彼は現地スタッフに次のように言いました。「ぼくは今まで、自分には価値がないと思っていた。人生は無駄なものと考えていた。でも今日、ぼくを愛してくれる人たちが日本にいることを知ることができた。神様がぼくをどれだけ愛してくれているかを感じることができて、本当にうれしい。」

子どもたちは未来を担う世界の希望です。1人の子どもには無限の可能性が広がっています。その子どもたちにとって、チャイルドサポーターの存在は大きな励まし、力となっているのです。今年のクリスマス募金は親がエイズで亡くなった孤児や、エイズの影響で極度の貧困に苦しむ家族と子どもに対して支援を行います。ぜひ応援をお願いいたします。



ファン・ダビッド君はリオカイネセンター・フロチコ村の中・高等部1年生・12歳。妹のジャネットちゃんは小学4年生・9歳です。2人とも勉強の成績が良く、態度もいいと先生たちのお墨付きです。

ファン・ダビッド君は難病でいつ症状が悪化するかわからない状態ですが、今は元気に生活することができています。彼の両親は同じ病気ですでに亡くなり現在2人は叔母一家に引き取られて生活していますが、一家も彼ら兄妹の他に実の娘4人を含め6人の世話をしているため、子どもたちが成長するにしたがって部屋も狭くなり、経済的にも苦しい状況になってきています。現在予算はありませんが地域の人々を含め有志を募り新しい部屋を作れないかと今祈りつつ考えているところです。



さて兄妹はこの8月JIFHサマーキャンプチームの訪問を受けて、食料品やサッカーボール、人形と共に、ファン・ダビッド君のサポーター・東北の郡山キリスト福音教会から届いた寄せ書きカードやプレゼントを嬉しく受け取りました。そして地球の反対側から来てくれた日本のお友だちが自分たちのためにたっぷりと時間をとって遊

# 変わらないもの変わるものと



ボリビア多民族国 駐在 小西小百合

んでくれたこと、特に一緒に家の前の砂地でフットサルの試合を思いっきり楽しめたことは、サッカー好きな彼らへの大きな励ましとなりました。2人は自分たちが愛されている喜びを充分に感じ、笑顔が絶えませんでした。

### 夢を生きる原動力に

ファン・ダビッド君の将来の夢は「よいサッカー選手になりたい」。またジャネットちゃんは最初「まだ考えていない、わからない」と答えていましたが、会話をしているうちに「建築士になりたい」という夢が具体的に出てきました。そしてそのために「これからも一生懸命勉強する!」と言い、2人ともそれを紙に書いてくれました。

私は最初は、いつ病状が悪化するか、またいつまで生きられるかわからないファン・ダビッド君に「将来の夢」を尋ねるのは酷なので、この質問をすることは控えようかと思ったのですが、いや、そのような状況にある彼だからこそ、夢を持って精一杯生きて欲しい。そしてその夢を叶えることができるように神様が彼を支えて下さる、と希望を持って質問をしました。

このように自分を支え励ましてくれる人がいて、夢を持つことができるのは、どんな環境にいても変わることがない、生きるための大きな原動力になると確信しています。この兄妹の祝福



ファン・ダビッドくん園とジャネットちゃんの将来の夢

を、特にファン・ダ ビッド君の健康が 支えられ、心も身 体もすくすくと成長 していってくれるこ とを願ってやみませ ん。 たいから 始めます をきの取り場が

北海学園札幌高等学校グローバルコースの生徒さんが、授業の一環として「ハンガーゼロ」の運動に興味を持ち、賛同した生徒さんたちの強い思いと取り組みによって、10月5日に「ハンガーゼロ自販機」の設置が実現しました。

北海学園札幌高等学校にハンガーゼロ自販機設置

# 「飢餓問題に協力したい」 生徒たちの熱意で実現

Hypgor Zer Arrica 自販機設置セレモニーで大西校長を囲んで

私たちは高校の研究調査の授業で、国連の「持続可能な17の開発目標」の中から「飢餓」を選び4月から調べています。私たちの最初の疑問は"飢餓はなぜ起こるのか"ということでした。調べて分かったことはまず、飢餓の原因は自分たちが想像していたような

「世界に食べ物がない」という理由ではなく、食べ物は十分にあっても貧困のため買うことが出来ず、また食料を作っても輸出してしまう、ということでした。

日本では年間5,800万トンの食糧を輸入しており、その3分の1





の1,940万トンが廃棄されています。これは世界の7,000万人が1年間食べることができる量だそうです。食べ物を買いすぎて棄てることになってしまったり、嫌いだから残したりという経験はないでしょうか?私たちも飢餓の1つの要因となってしまっているのです。

この事実を知り、飢餓の地域の人々のために私たちが出来ることは何かを探しました。そして、このハンガーゼロ自動販売機を見つけ、これを学校に設置することが出来たなら全校で協力して飢餓の地域に募金することが出来るし、自動販売機というよく使うものだからこそ生徒の飢餓に対する意識も高まるのではないかと考えました。

しかし、自動販売機を設置するということは、そう簡単ではありませんでした。まず初めに学校への交渉をし、企画書を作成し許可を得なくてはならず、多くの時間がかかりました。ですが、その中で先生方の協力もあり設置をすることが出来ました。正直なところ、実際に設置することが出来るととを誇りに思っています。

#### 自ら進んで行動できた喜び

日本で普通に生活しているだけでは世界の問題に気づくことはなかったと思います。授業という機会で世界に目を向け、問題について調べて自分たちで少しでも行動を起こすことができ、感謝しています。この活動を通して私たちは自ら進んで行動することの大切さを学びました。これにより多くの人に飢餓について少しでも興味を持ってもらい、この活動に協力してもらえるようにこの自動販売機を通して努力していこうと思います。

(文・同校3年 村田瑠奈さんと成田紗貴さん)



「ハンガーゼロ支援自販機」は、自動販売機の売上の一部(1本当たり10円)が飢餓と貧困に苦しむアフリカの人々を助ける「ハンガーゼロ」の活動に寄付されます。寄付金30円はアフリカの子どもの給食1食分に相当します。

※災害に供えパン缶と水約100食分が備蓄できるタイプもあります。



エチオピア統計 エイズ孤児が100万人

今回支援する地域では

# 天候不順で慢性的な食料不足も続く

エチオピア・アムハラ地方のレイ・ゲイント、タック・ゲイントおよびシマダ地域の人々は、大家族にもかかわらず狭い土地しか持たず、その土地は劣化している上に不規則な降雨によって慢性的な食料不足に苦しんでいます。

食料不足に加えて、エイズの感染によって両親を失った孤児が非常に多く取り残されています。エチオピアにおけるエイズ患者の数は減少していますが、今もおよそ100万人のエイズ孤児が基本的な必要やケアを受けられず安全が守られない中で生きています。

この地域で暮らすこのような子どもたちの70%は15歳以下で、コミュニティは彼らの必要に応えられるだけの財的・人的資源を持っていません。従って継続的に子どもたちを支えていくには、家庭の収入改善が重要です。

FHエチオピアは「孤児及び貧困の中にある子どもたちに明るい未来を」プロジェクトをこの地域で実施しています。このプロジェクトに登録された子どもたちのうち約半数が、エイズ関連の悲劇によるものです。FHエチオピアは食料不足とエイズの両方に対応するとともに、プロジェクトの恩恵を受ける家族の生活改善を目指しています。

## プロジェクトの目標

- ●孤児および貧困の中にある子どもたちが、必要な食べ物を得て 学校に通うことができる。
- ●このような子どもたちの家庭の収入が改善する。
- ●プロジェクトに関わる地域のパートナーが、責任と当事者意識を持ってこのプロジェクトを持続していくようになること。

#### FHが取り組んでいる主な活動

- ■教育支援(学校の教材と授業料の支援)
- ■保健衛生支援(医療支援、保健衛生及び性と生殖に関する健康教育)
- ■食料支援(毎月麦と豆を配布)
- ■心のサポート (カウンセリング、家庭訪問、それぞれの興味や得手を基にしたクラブ活動への子どもたちの参加)
- ■生活改善(収入改善活動のグループへの介入と支援、能力と技術のサポートを通して自助グループを強化)
- ■孤児や貧困の中にある子どもたちの支援を将来的に肩代わりできる、コミュニティ・ボランティアが地域で育つのを助ける。

このプロジェクトのために、皆様の温かい 支援・ご協力をよろしくお願いいたします

※クリスマス募金は2018年1月末まで受付ます



けている。 房具、医療などの支援をFHから受 村の人に紹介されて食料、衣服、文 ハイレユスス君(12)エイズ孤児。

# 「将来はお医者さんになって 病気の人を助けたいんだ」 エスヤウカル・アベベ(12)

エスヤウカル・アベベ 君12歳は、母親と妹と エチオピア アムハラ 地方、レイガイントのネ ファス・メウチャの町で 暮しています。彼が8歳 の時父親はエイズで亡 くなりました。家計を 支える父親を失い、深 刻な病気を抱えるエス ヤウカル君の生活は 悲惨なものとなりました。

エスヤウカル君が学校に定期的に通 うことは困難でした。未亡人となっ た母親が学校で必要なペンや本、制 服などを用意することができなかっ たからです。子どもたちに食べ物を 与えることさえ困難な状況で、教育 を受けさせるのは無理でした。

FHエチオピアの「孤児および貧困の中にある子どもたちに明るい未来を」プロジェクトは、事態を深刻に受け止め、この家族のために必要な支援を実施することを決定しました。この家族を長年苦しめてきたこと、すなわち食料と学校で必要な物すべてを提供し、エスヤウカル君にも特別な保護を行いました。そして彼は最も多く家庭訪問を受ける子

どもの1人となりました。ソーシャルワーカーは彼の将来が明るくなるように励まし観察し続けました。

現在エスヤウカル君は12歳、6年生で妹は11歳、5年生です。将来は、お医者さんになって病気の人々を支え治療するようになりたいと言っています。一方母親のエヒテ・フェテさんは自助グループのメンバーになり、グループから借り受けた資金で小さな商売を始めました。また、少ない収入の中から貯金をすることを学びました。家族全員の生活と物の見方が変わったのです。

最近彼の母親は「もし息子がこのプログラムに入れてもらってなかったら、早くに学校をやめていたことでしょう。FHとスタッフの皆さんが私たちを支えてくださったことを感謝しています。皆さんに神様の祝福がありますように!皆さんが関わり支援してくださっていることは、私の子どもだけではなく多くの子どもたちに希望を与えています」と語りました。

# 続けて学校に通うように なり成績が飛躍的に向上 ビレン・メスフィン(9)

ビレン・メスフィンちゃん、9歳は、エチオピアのネファス メウチャ 地方ノレイ ゲイント地区で母親と 弟の3人で暮らしています。父親は3年前に遠くへ行って帰って来ません。日雇い労働者として働いている母親は月に12ドル(約1400円)貰っていますが、家賃を払うと僅かしか残らず、学用品はおろか満足に食べることもできませんでした。ビレンがFHのプログラムに選ばれてから、一家は喜びと希望を見出すことができるようになりました。学校で必要な教材、制服、授業料が支給さ

れ、医療やカウンセリングも 定期的に受けられるように なったのです。続けて学 校に通うようになって 成績が飛躍的に良くな りました。将来は医者 になってFHのプログラ ムのために働きたいとい う彼女の大きな変化に、 母親はとても喜んで両 手を挙げてこう言いま す。

「もしFHの支援がなかったら、夢を抱くどころか小学校も終えることができなかったことでしょう、子どもの人生を書き直してくれた神さまありがとう!」そして「FHにお願いがあります。孤児や私の娘のように取り残された子どもの支援をどうか続けてください」と。





マスレシャ君 (17) 父親が亡くなりFHから 教育、食料、医療の支援を受けている。 夢は医者になること。



ングなどの支援を受けている。いる。家族は食料、教育、トレの1日60円の給料で弟と共に暮レンちゃん(g)エイズ患者のレンちゃん(g)エイズ患者の

JIFHの協力団体ハン ズ・オブ・ラブ・フィリピン (HOLPFI) のスタッフと して7年余り活動をしてこ られたエバさんが世界食 料デー大会での報告のた めに来日、HOLPFIの活 動について聞きました。



# 》》マンヤンの男性の大きな決断で待望の学校が実現しました《《

#### ● HOLPFIの役割は

どのように自分たちの生活を良 くしていくことができるのかを、 コミュニティ全体が気付く手助け をするのが、私たちの主な役割で す。自分たちはどんな資源、潜在 能力を持っていて、どんなことが できるのかを考えてもらうこと、 ビジョンを持つことの大切さを伝 えることです。

# ◎ 2015年からソコロ県のマイ地 区で活動しておられますが、その 地区を選ばれたのは?

マンヤンの教会連合に相談し て、一番必要が多くあるコミュニ ティを紹介してもらいました。4 つの地域が挙げられましたが、村 から遠く離れた所にあって取り残 された状況にある人たちが暮らし ているマイ地区を選びました。33 世帯198人の地区ですが、人口の 43%が12歳以下で子どもが多い のに学校にいっていないのです。 ほとんどの女性は読み書きができ ませんし、男性は読むことが出来 ても書けません。

# ◎ そのような地区に突然入って 行くのは難しかったのではありま せんか

クリスチャンの村で教会を通し て行かせていただいたので、喜ん で迎えてもらえました。

私たちが来た目的を話したとこ ろ、指導者のトレーニングをして ほしいとの希望がでてきて、2016 年の6月から8月に、リーダーシッ プ・トレーニングを行いました。日 によって違いますが男女合わせて 20~30人が参加されました。

## ○ 人々にどのような変化がありま したか

皆さんの一番の希望が子どもを 学校に行かせたいということでし た。そのためにルニンさんという 一人の男性が担当者に選ばれ、学 校を作るために遠くにある役所に 何度も通って交渉されました。マ ンヤンの人は恥ずかしがり屋で、 外に出て人と交渉するというよう な文化はなく、大変な決断だった と思います。ルニンさんには4人 のお子さんがいますが、学校がな いので一番上の子だけ家をはなれ て知り合いのタガログ人の家族に 預け、学校に通わせています。

#### ◎ 学校はできたのですか

はい! 学校は明日から始まると 今日連絡がありました。義務教育 13年のうち1年はキンダー(幼稚 園) といって入学準備期間です。現 在40人の生徒が集まっています。 フィリピンでは落第制度があるの

マイ地区の人々の地域変革を応援してください 支援は郵便振替00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構記入欄に「ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン」と明記。又ウエブサイトから 海外スタッフサポーターに申し込んで酒井保・慶子駐在員を継続支援することもできます。

で、いきなり1年生になってもつい ていけないで落伍する子が沢山い るのです。そこで数とアルファベッ トはキンダーで教えてスムーズに 進級できるように変更されたので す。私たちは学校に行ったことの ない親や村に住み込む先生をサ ポートしています。

# ■ よかったですね。ところで世界 食料デー大会のために来日されて 印象に残ったことは?

日本の人々が、世界の食料事情 についてすでに知っていて取り組 んでいることに驚きました。それ に学生やシニアのボランティアが 時間をさいて無償で働いているこ とに感心しました。フィリピンで はボランティアといっても交通費 と食費は渡さないと来てくれませ ん。フィリピンでも日本のように なれば嬉しいです。継続的に支援 をしてくださっている日本のみな さんにとても感謝しています。フィ リピンがいつか支援なしで自立で きるようにお祈りください。



④ルニンさんとお父さんたちによって作られた教室 ⑤子どもたちの授業の様子

# 世界食料デー鹿児島大会 20年の歩みをふり返って

~大会実行委員の阿野氏と佐多氏に聞く~



10月13日に開催された「世界食料デー鹿児島大会」は今年が20回記念となりました。 同大会では、大会実行委員による地域社会に向けた地道な取り組み (運動) が支援 継続の力となっています。大会実行委員の阿野俊郎氏 (大会副委員長) と佐多洋明氏 にお話を伺いました。(活動をサポートされている奥様にも同席していただきました)

# 食料デーの時期だけでは支援の輪は広がらない

◎ 世界食料デー鹿児島大会(以下 WFD鹿児島)では、大会で収録し たビデオを活用して「地方大会」 を持たれていますね。

20年間継続する中で、高齢者な ど市内の会場まで足を運ぶのが困 難な方も出てきています。それで5 年前から毎年2つの教会を会場に して、本大会の短縮版ビデオで「地 域報告会」を開催しています。本 大会同様の資料も配布し、席上募 金もしていただいています。(佐 多·阿野)

#### 貧しい人の権利として…

ℚ WFD鹿児島ではこの20年でお よそ2千万円の募金協力をしてい ただいていますが、会計報告によ ると、大会に来られていない個人 や団体からも「一食分募金」での 力強い応援があるのですね。

食料デーの時期だけ活動するの ではなく、年間を通して講演や学 校での出前授業、街頭募金などの 活動を通して支援や啓発の輪を広 げる取り組みを続けています。私 個人は収入の1%を「貧しい人の



権利」として取り分けるようにして います。聖書のレビ記23章22節に 「あなたがたの土地の収穫を刈り 入れるとき、あなたは刈るときに、 畑の隅まで刈ってはならない。あ なたの収穫の落ち穂も集めてはな らない。貧しい者と在留異国人の ために、それらを残しておかなけ ればならない。わたしはあなたが たの神、主である。」と書かれてい たからです。年収の1%ですから、 一時的な募金をするよりも確実に 多く捧げることができます。この考 えに共感して 「落ち穂募金」を実践 してくださる方々が世界中に増え ることを願っています。(阿野)

#### 集めるよりこちらが出向く

## ◎ 小学校での出前授業を見せて 頂きましたが、世界の飢餓問題を しっかりと語っておられますね。

子どもはいいですよ。私たちの 話を真剣にそして素直に聞いて くれますから。中には話を聞いて 自分も何かしたいと募金を持って きてくれた子もいました。鹿児島 大会の課題でもあるのですが、若 い人の来会が非常に少なくなって います。また、今のご時世では「子 どもを集める」ということがいろ いろな理由で難しくなってきてい ます。そのためにもこちらから学 校に出かけるというのは効果的で



7年の鹿児島大会のひとコマ

す。ただ、授業で飢餓問題や食べ 物の大切さを知っても、家に帰ると その思いが消えてしまうので、保 護者の方と一緒に勉強して何かを 実践するような機会があればと思 います。

今の子どもたちは、様々な問題 をテレビやネットで見てはいるけ れど、それを自分の生活に当ては めて何かを始めるということには つながらないので、そこを私たち 伝える側が動機づけられればと 願っています。(佐多夫妻)

#### ◎ 20年続けてこられたのは

正直言うと「今年は大会を休み ましょうか」という時もありまし た。それでも続けてきたのは、この 働きは神様が願っておられること であり、現地の人々の命そのもの に直結している働きであると確信 しているからです。聖書に「もっと も小さい者のひとりにしたのは、わ たしにしたのです」ということばが ありますが、私たちも貧しい人や 弱い人に寄り添う生き方をJIFHと 共にしていきたいと願っています。 (阿野·佐多)



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20ヵ国 60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

# エイズ孤児への募金にもなる「クリスマスの贈り物」

①フェアトレードチョコレート 2個(種類はおまかせ) ②フェアトレードココアとハン

ガー・ゼロ活動支援 コーヒーモカ・ブレ ンド各1袋の4点を セットで**計2,500円** (JIFH クリスマス 募金70円分も含む) 送料:500円。



(但し北海道、沖縄、離島は別途1,000円加

算)※特に年末年始は流通事情により到着日 の指定はご容赦願います。

- ・お届けは日本国内に限ります。
- ・**お支払い**:後払い 郵便局払込で株式会社 キングダムビジネス口座へ。

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPO ビル402 TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888 メール:customer@kbwin-win.org

Web: キングダムビジネスで検索

## ●年末年始は 書き損じ「年賀はがき」 と本 de リンクで国際協力を!!

郵便局で発売中の「年賀状」で書き損じたものやポストに未投函のもの(通常はがきや古い年賀状でもOK。但し書き込み、汚れのあるものは不可)がありましたら大阪事務所までお送りください。また、年末の大掃除などで、不要になった本(コミックも含む)やCD、DVDゲームソフトがありましたら、愛知事務



所までお送りください。 いずれも換金(はがきは 切手交換)して、飢餓に 苦しむ人々の支援に用 いさせて頂きます。詳細 は当機構のウエブサイト 「わたしから始める」を ご覧ください。

# 「パンの缶詰」の本が出版されました!



JIFHの協力企業であるパン・アキモト(那須塩原市・秋元義彦社長=当機構ハンガーゼロ特別大使)が開発した長期保存ができるパンの缶詰を活用した【救缶鳥プロジェクト】(JIFHを通じて飢餓地域に食料支援)を紹介する書籍「世界を救うパンの缶詰」(文:菅聖子絵:やましたこうへい/ほるぷ出版)ができました。ぜひお読みください。書店やネット通販でお求めください。

当機構は12月、パンの缶詰57.000食分を南アフリカの食料支援として送りました。

## ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!! <sup>現在までに</sup> 4 4 0 6 ロ

# 今すぐ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りりがもに動うで、の大阪事務ののではないではないではないです。 としてもいるであるととしてもいるではないではないではないではないではないではないである。 必要書類等を送いていただきます。

お電話でも申し込み できます。各事務所 までおかけ下さい。

クリスマス	く 募金 エ	イズ孤児の未来のために
1時募金と	:して (	)円
ハンガーt	ゼロサポー	・ターとして協力します。
毎日(	) $\square$	(1日1,000円)

- □ チャイルドサポーター (子ども1人 4,000円)に なりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- □ 海外スタッフサポーターとして協力します。毎月( ) □ (1 □ 1,000 円)
- □ JIFHサポーターとして協力します。
  - 毎月( )口 (1口500円) ] 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- □ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

リガナ					
名	•				
/	•				

フリガナ **住所**:

▼申込日:

年 月 日▼NL 329 <del>{</del>

男・女

FAX • 072-920-2155

#### ■発 行 者 清家弘久

■発 行 所 一般財団法人 **日本国際飢餓対策機構** 



Webサイトアドレス e メールアドレス フェイスブック http://www.jifh.org/ general@jifh.org https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで

- ●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- ●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ



## \$554BIT \$668888



875-4675 FamilyHart BROOMERT LAWRON



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1

(広島) TE (072)920-2225 FAX (072)920-2155 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室 (東北) TE (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782

愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F ILL (052)265-7101 FAX (052)265-7132

沖 縄 〒900-0033那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号 TE (098)943-9215 FM (098)943-9216

USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TL(510)568-4939 FM(510)293-0940

力をして下さっています。
関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協関の地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。